

令和 6 年度 調布市立若葉小学校 学校経営計画（学校長 内藤 みゆき）

学校の教育目標	
○かしこく（しっかり考え、すすんで学ぶ子） ○やさしく（思いやりのある子） ◎たくましく（明るくたくましい子）	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
笑顔あふれる「たい※」が泳ぐ学校 ※「～したい」「やってみよう」等といった前向きな思いやエネルギー 分かり合おうとする心と考える力を言葉と向き合いながら身に付ける子ども	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく素直な児童が多い。しかし、自己肯定感が低く主体的な取り組みに課題が見受けられる児童も少なくない。 ・児童数の大幅な増加によるプレハブ校舎設置や校庭の狭小化等、活動に様々な制限が生じる施設環境下にある。 ・3年以上に及んだ新型コロナウイルスによる様々な変化の影響も一因と推測されるが、他者とのコミュニケーションや集団行動等に苦しさやストレスを感じる児童が増えている。
中期的な経営目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1 自己指導能力を高め、自他の命を大切に、自律した言動がとれる児童を育成する。 2 自己肯定感を高めつつ、基礎基本をしっかり定着させるとともに、主体的で対話的な学びを通して考えを深めていく児童を育成する。 3 健康保持・体力増進への意識を高め、自ら考え判断し、粘り強く実践する児童を育成する。 4 全ての基盤となる言語能力と情報活用能力の向上を目指し、言語環境を整えるとともにモバイル端末の効果的活用を推進する。 5 特別支援教育を推進し、SS や SC、SSW、巡回指導教員等を含めた全教職員及び関係諸機関との組織的連携を強化していく。 6 保護者・地域との連携を密にし、教育活動の充実と安全確保を図るとともに、CS へ向けた理解促進を図っていく。 	
人・組 職層に応じた自身の役割を自覚し、学校経営方針を実現させるための取組を意識し、工夫しながら動くことのできる組織を構築する。	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 年3回の児童アンケートや月1回の校内委員会、週1回の生活指導夕会での情報共有を個に応じた支援や組織的対応につなげ、児童の安心感や自己肯定感を向上させる。	① 主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善に取り組む。殊に児童の学習意欲を喚起し、考えることや意見交流することの楽しさを味わわせる授業づくりに努める。	① 体力向上を図る取組(体育朝会や第四中校庭を借用した休み時間の運動の場確保等)を工夫し、運動の楽しさを味わわせる。
② 規律の定着を図り、安心できる生活環境を整える。また、道徳科の授業を中心に心の教育を充実させ「いじめはどんな理由があってもいけない」という意識の向上を図る。	② モバイル端末の効果的活用を推進し、教員の指導力と児童の情報活用能力を同時に向上させる。(指導計画の確実な実施・ICT朝会による情報モラル教育の充実)	② 学校全体で交換授業や交換 HR 等を推進し、学年全体で学年の児童を見ていく意識を高め、多面的な児童理解や児童が相談しやすい環境づくりにつなげていく。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 学校評価アンケート(児童)で、「学校が楽しい」「自他の尊重」項目の肯定的な回答90%以上を目指す。	① 児童アンケートにおいて、授業への理解及び主体的取組に関する項目の肯定的回答の昨年度比+3Pt 以上を目指す。	① 学校評価アンケート(児童・保護者)において健康教育の項目への肯定的回答80%以上を目指す。
② 学校評価アンケート(児童・保護者)の「基本的生活習慣」項目の肯定的回答90%以上、学習状況調査「いじめ意識」項目の肯定的回答の昨年度比+3Pt 以上を目指す。	② 学校評価アンケート(児童)において、「基本的な学力」「ICT 機器の活用」「ICT 機器のルール」項目の肯定的回答90%以上を目指す。	② 学習状況調査「困りごとや不安がある時の相談」項目の肯定的回答の昨年度比+3Pt 以上を目指す。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

4 言語能力・情報活用能力の向上	5 特別支援教育の推進	6 地域との連携
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 「聞く」指導の徹底を図るとともに、考えを「もつ」「表す」「伝え合う」「深める」授業実践を積み重ね、考えを言語化したり、必要な情報を集め判断したりする活動を通して言語能力・情報活用能力の向上を図る。	① 特別支援教育コーディネーターの役割を明確にし、迅速な情報共有につなげる。月1回の校内委員会を SC や校内通級教室指導教員の参加が可能な日時に設定し、支援体制の充実を図る。	① 「地域学校協働本部」のコーディネート力を活かし、ゲストティーチャー等、外部人材の活用による体験的学習の充実を図る。また、低学年児童を対象とした「放課後教室」や「漢字検定」の円滑な実施に協力する。
② 読書旬間及び読書月間を中心に読書活動を推進するとともに、日常的な言葉遣いの指導を通して、言語感覚を養い、豊かな言葉の獲得を目指す。	② 特別支援教室での指導が在籍学級での指導・支援に活かされるよう、専門員や特別支援教育コーディネーターを窓口として円滑な連携を図る。	② PTA や地域学校協働本部コーディネーターとの連携を図り、春の体育的行事や秋の学芸的行事の充実につなげる。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 学校評価アンケート(児童・保護者)において「言語活動」「ICT 機器の活用」項目の肯定的回答80%以上を目指す。	① 学校評価アンケート(児童・保護者)において「特別支援教育」項目への肯定的な回答75%以上を目指す。	① 学校評価アンケート(児童・保護者)において「地域学校協働本部」「体験的な学習活動」項目への肯定的回答80%以上を目指す。
② 学校評価アンケート(児童・保護者)において「読書活動」への肯定的回答80%以上を目指す。	② 「個別指導計画」「個別的教育支援計画」を100%作成し、巡回指導教員と学級担任との連携の場を設ける。	② 月1回の協働本部コーディネーターとの打ち合わせ及び行事前の PTA との打ち合わせを確実に実施する

人材育成・組織運営
<ul style="list-style-type: none"> ・主幹教諭及び各部主任教諭をリーダーとする校内組織の質的向上及びOJTの充実を図る。(若手教員の育成・主任教諭の活用) ・職層に応じた職責の自覚を促し、校務改善及び指導力の向上を推進していく。